

連絡先

山本邦夫(982)8844 ★くらしの相談、お気軽に
巖 博(982)9663 亀田優子(982)1277
中村正公(983)8312 澤村純子(983)6275



流れ橋
四季彩館

コロナ禍で赤字急増！
営業赤字過去最大 2263万円
市の補てん額は1400~1500万円に拡大

八幡市議会決算委員会で追及

八幡市議会では、9月5日から10月8日まで2019年度の決算審査が行われています。質疑の中で、流れ橋交流プラザ「四季彩館」、農産物直売所（八幡市上津屋）の収支状況について質問したところ、今年3月からのコロナ感染防止対策の影響で収支が急速に悪化していることが判明しました。

赤字補てんを継続

四季彩館は開設した2002年度以降、営業赤字が続いていました。開設当初は年間600万円台だったのが2009年度に1000万円を突破。2018年度ごろには1500万円程度に膨らみまし。2~3月に全国でコロナ感染が広がる中で営業赤字が2263万円に膨らみまし。

八幡市は開設以来、委託料や指定管理料で経営を支援し、赤字を補てんしてきましたが、開設当初の600万円台から現在は1400~1500万円に急増しています（2014~18年度は1526万円、2019年度は1438万円）。開設時に比べ市の補てん額は2.3倍にも拡大しま

| 営業赤字 | 指定管理料 | 経常赤字 |
|--------|--------|-------|
| 2263万円 | 1438万円 | 825万円 |

した。

2019年度の場合、2263万円の営業赤字にたいし、指定管理料として1438万円を投入してもなお、経常赤字が825万円となり、運営の先行きが見えなくなっています。

しかも、2020年度は年度当初からコロナの影響が長期化し、客足が減少したまま、経営状況はさらに悪化しています。

四季彩館の赤字を穴埋めするために、市が巨額の財政投入を続けることが適切なかが問われます。

「活性化の起爆剤」と言っていたが…

流れ橋交流拠点を開設した当初、八幡市は市議会にたいし「活性化の起爆剤」と位置づけ、「自主採算で経営して八幡市に新たな負担を求めるとはしない」と説明していましたが、開設当初の600万円台から現在は1400~1500万円に急増しています。

日本共産党は当初から、流れ橋交流プラザの先行きについて見通しが立たず、財政を圧迫すると指摘していました。

事業と運営の見直し迫る

日本共産党

小・中学校
高校

少人数学級を早く

30人以下のクラスに さらに20人程度のクラスに